

地域に開けた「納涼☆ゆめ祭り」

活動先 NPO 法人ゆめじろう

1. 活動先紹介

ゆめじろうは、武豊町を中心に地域の課題の解決に取り組んでいる NPO 法人である。支援費制度が開始されたとき、知多半島には制度があっても利用できる施設が少なかった。そこで、理事長の出口さんを中心として障害者の生活支援を目的に設立されたという経緯がある。武豊町は古くから「浦島太郎伝説の町」として知られている。町のキャラクターは亀に乗った浦島太郎で、その名は「ゆめたろう」という。親しみのある名前は武豊町に住んでいる人なら誰もが知っている。その兄弟分として、ゆめたろう同様、地域の人々にかわいがっていただけたらという願いを込めて、老若男女誰もが覚えやすい名前として「ゆめじろう」は誕生した。浦島太郎をモチーフにしたイメージキャラクター「ゆめじろうくん」はパンフレットや機関紙など様々なところに登場し、親しまれている。「住み慣れたまちでふつうに暮らしたい」という誰もがもつ願いをすべての人が実現できるよう、ゆめじろうは「身近で専門性を備えたサービス」作りに取り組んでいる。活動の対象は、障害者、高齢者、子育て中の方など、住民すべてである。そのため、事業内容は多岐にわたっている。障害者の方へは、ホームヘルパー派遣、ガイドヘルパー派遣、地域生活支援センター（ひるじろう）、児童放課後活動支援（こじろう）、知多南部 3 町の障害者相談事業などを行っている。障害の重い人たちにも対応するサービスを行っているのは、武豊町内ではゆめじろうのみである。ひるじろうは障害者の方の日中活動の場であり、お仕事の間でもある。コロッケやワッフル作り、食事、お出かけ、掃除などをして過ごしている。こじろうは障害のある子どもたちの放課後や長期休暇に対応する町内唯一のサービスである。高齢者の方へは、ケアマネ介護相談、訪問介護、介護予防支援、タイムケアサービスなどを行っている。この他に、子育て支援事業、ゆめたろうプラザでの喫茶店などを行っている。また、武豊町地域包括支援センターへ NPO としては珍しくスタッフを出向させている。

ゆめじろうは 2009 年の 4 月で 7 年目に突入した。少しずつ事業は拡大し、常に前に進んでいる。サービス内容や活動には一定の評価を得ており、在宅サービスの活動モデルとなっている。今後は障害者が安心して暮らせる住まいの問題、障害者の家族の緊急時に対応できるショートステイの設置、さまざまな活動を提供するスペースの確保の問題、20 年先も支え続けられるための人材確保と育成の問題などの課題に取り組んでいく。

2. 当初の活動目的や目標

私たちは、活動先の理念である「住み慣れたまちでふつうに暮らしたい」という物を実

現させたいという思いから、障害児・者、高齢者、またその周囲の人々が共に楽しみ、一つのことをやり遂げる達成感。この達成感をきっかけとし、新たなスタートを踏み出す企画を生み出す。以上のことから、地元の方々が気軽に足を踏み入れることができる環境を目指す。という目的のもと、活動先の方を踏まえて改めて、目的や目標を考える機会を得ることができた。会議の中では、もう一度何をしたいかを考え、その中で目標を考えた。そして、活動先の方を踏まえすべての人で統一した目標「地域を知る」を掲げた。「地域を知る」という中には、私たちが大学を出て地域で何ができるか、地域では何を必要としているのかを考えると共に地元を知りたいという思いが込められた。

3. 自分たちの活動内容

私たちは、活動先の方との話し合いの中で、互いにとって初めての取り組みである夏祭りを企画・実行した。活動先のスタッフの方と何度も何度も会議を行い、その中で、祭りをを行う目的や意義を話し合ったり、実際に私たちが動いて保健所に行ったりもした。活動の中で、衛生面に関して実際に保健所に自分たちで行き、許可をえることには戸惑いも感じつつ、私たちの企画が実際に一歩ずつ前に進んでいくことに喜びを感じた。また、活動先で話し合いをするだけでなく、一人ひとり役割分担を行い、出店するお店の品物の単価調べや、来ていただく校内の大道芸サークルの方とのアポ。その他、クレープ屋さんとの連絡や、落語家の方との連絡。夏祭りを企画することに対して私たちができることを見つけ行ってきた。

ゆめじろうさんにとっても初めてであり、集客率に大きな不安はあったが、地元富貴地区へのチラシ全戸配布や、スタッフさんの方を中心にした最寄り駅でのビラ配り、その他名刺サイズのチラシづくり、ブログでの宣伝、看板作りなどを通し当日大成功に終わった。

今回の活動では、利用者さんの方には販売するコロッケ・ワッフルを作ってもらったり、当日店長さんとして参加していただいた。一人ひとり障害のレベルにあった形で参加していただき、利用者さんの笑顔、また達成感を得ることができた。

「地域を知る」という目標の下行った活動は、目標を達成することができたと思う。

4. 活動における問題点・課題

今回初めての試みということで、問題点は多くあったが、活動における問題点として、活動後の反省で特に挙がったのは利用者さんとのコミュニケーションだった。お祭り当日は利用者さんに、出店ごとに店長さんとして一緒に活動してもらおうということだったが、店長としての役割分担がうまくできていなかったために、利用者さんが地域住民とふれあえる機会が少なかったように思った。利用者さんにもできる仕事とできない仕事があるので、活動をしていく中でもっと積極的に自分から利用者さんとコミュニケーションをとって、利用者さんにあわせた活動ができていたら、利用者さんが活動できる幅も広がったのではないかと思う。活動における課題としては、サービスラーニングの趣旨でもあ

る自主性と積極性が課題だと考える。今回の活動では何から何までスタッフさんのお世話になってばかりだった。スタッフさんとお祭りの打ち合わせをする中で、スタッフさんの意見も聞きつつ、もっと自分はこうしたいというような意見がもっとあってもよかったのではないかなと思った。話し合いの場で自分の意思を発言することも、利用者さんやスタッフのみなさんとコミュニケーションをとることも、自主性であり、積極性だと思う。今回の活動は少し受け身になりがちだったのでこれを反省して、今後の活動に活かしていきたい。

5. 活動を通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

ゆめじろうで行っているサービス、利用者さんとの関わり方、スタッフさんの忙しさなど、活動を振り返ると本当に多くのことを学ばせていただいた。その中でも、私たちが主に関わらせていただいた、「納涼☆ゆめ祭り」で学んだことは多かった。私たちはお祭りを企画することも、何もかもが初めてで、原価計算や保健所での手続きなどわからないことだらけだった。本当にゼロからのスタートだったが、だからこそ吸収できたことも多かったように感じる。イベントなどの企画をするときには、企画チームでの会議がとても大切だと学んだ。お祭りをするにあたって、当日までの準備過程がお祭りを成功させる鍵だから、企画チームがチームワークを発揮し、協力し合うことが必要だと気付かせていただいた。また、お祭りに限らず、ゆめじろうのスタッフさんも様々な会議をされていることを間近で感じさせていただくこともできた。お祭りを通して、利用者さん、スタッフさん、地域の方、ボランティアスタッフなど様々な方と関わり、お祭りを成功させる喜びを知った。

ゆめじろうのスタッフさんには、多くのお話を聞かせてもらう機会があり、人生の先輩として、福祉の現場で働く先輩として、「自分の意思を伝える力を伸ばしてほしい」というお言葉をいただいた。今回学ばせていただいたことを活かし、将来につながるような学習をしていきたいと思う。より一層、広い視野を持つきっかけになった。

6. 活動先への提案

ゆめじろうさんが、地域の人たちに施設を知ってもらうために現在行っていることとしては、パンフレットの設置・HPの作成・障害をもった方々の生活を考えていく勉強会などの開催・駄菓子などの販売・相談事業などがある。しかし、実際には地域の人達にどのような施設であるかということは、あまり知られていない。まず、ゆめじろうさんで現在行われていることを、もっと多くの人達に知ってもらうための提案から述べたいと思う。ゆめじろうさんでは、コロッケやワッフルの製造と販売を行っているが、どちらもまだ規模が小さいように思える。近くのスーパーや人が多く来るような所で屋台のようにして販売するのも良いのではないだろうか。その際にゆめじろうさんの雰囲気や様子を載せたチラシのようなものを一緒に渡すことによってもっと多くの人達にゆめじろうさんを知っても

らえるきっかけとなる。次に、今後新しく取り入れていくと良いのではないかと考えた提案について述べよう。もっと多くの人達に、この施設を知ってもらうためには、地域の人達が参加できるイベントを行っていくとよいのではないだろうか。このイベントの例として、夏にサービスマーケティングの活動として行った夏祭りがある。これは、地域の人達にゆめじろうさんの存在を知ってもらおうというのが目的であった。この夏祭りでは、スタッフさんと私達サービスマーケティングの学生によって企画・運営を行ったのだが、当日は多くのボランティアさんやひるじろうとして活動している、主に知的障害をもった利用者さんの協力により、たくさんの方々に参加してもらうことができ、夏祭りは大成功となった。この時にも、ゆめじろうさんでつくっているものを販売し、多くの人達に知ってもらうとよいきっかけとなった。このイベントを行ったことで、施設に対して関心をもってもらえるきっかけになったと思う。このような、地域の様々な人達が参加できることを今後、継続して行っていくことによって、さらに多くの人達に施設の存在を知ってもらえるのではないかと感じた。

7. 次年度活動をする学生へ

サービスマーケティングの活動に取り組む時に、自分なりの目標や意欲を持って活動に取り組むということはとても大切なことである。そのような意識を持ちながら活動に取り組むことで、施設の人達もいろんなことを経験させようとしてくださり、自分自身吸収することが出来る。そして、実際に活動を始めた時にまず行ってほしいのが事前調べである。活動先の施設にはどのような人達が利用していて、どんなサービスや活動を行っているかということはもちろん、地域についても出来る限り調べておくことが大切である。次に、時間帯や言葉遣いなどを考えて、電話をかけ事前訪問の日程などを決める。早めに、活動先に学生自身の大まかな予定を余裕を持って伝えておくことで、今後の活動をスムーズに行えるのである。活動先のスタッフや活動の対象者との接し方であるが、学ばせていただいているという謙虚な気持ちで、スタッフには学びたいという意思を積極的に伝え、対象者には、本人の意思を尊重しながら自分から接していくことが大切である。最後に、活動の記録についてであるが、活動を行ったその日に書くことが大切である。そして、誤字脱字や相手が見やすいように書くことをしっかりとする必要がある。これは、施設の方に自分たちが書いた記録書を見てアドバイスをいただくからである。以上述べたことを、少しでも念頭に入れて行ってほしいと思う。